



の終戦70年 誓い 生命尊厳の 時代を築け

1994年（平成6年）2月、池田名誉会長のカメラが写した沖縄・恩納村のエメラルドの海。白い砂に、2つの人影。平和そのものの風景が広がっていた。

海は命の母である。だがその海を、軍艦が埋め尽くし、人間の血

が染めた歴史が、かつてあった。

「戦争ほど、残酷なものはない」。平和への人類史の転換を目指す民衆運動の大叙事詩——小説『人間革命』を、名誉会長が記し始めたのは、ここ沖縄である。

きょう9日は、広島に続き、長

崎に原爆が投下されて70年。15日には終戦70年を迎える。誤った思想、愚劣な指導者のもと、国民に死が強いられ、アジアに侵略の惨禍をもたらした歴史を心に刻み、世界平和のために出現した学会の、根源的使命を自覚したい。

人生の目的――
それは、幸福。
人生の願望――
それは、平和。
その幸福と平和に向かって、
歴史は
展開されていかねばならない。
人間は、

その確かなる軌道の法則を、
追求する生き物である。
科学も、政治も、
社会も、宗教も、
目的は
この一点にあらねばならない。
この現実世界は、



「核兵器のない世界」「戦争のない世界」へ、共に歩んだパグウォッシュ会議のロートブラット博士（左端）と。池田名誉会長は戸田記念国際平和研究所の創立者として、「戸田記念平和学賞」を授与（2000年2月、沖縄研修道場で）

仏と魔との戦場である。
人間を
不幸のどん底に陥れんとする
「第六天の魔王」に対して、
人類を平和へ、幸福へ、
希望へと導かんとする
「仏」の勢力は、
断じて勝たねばならない。

民主主義の根本は
「一人の人を
大切にすること」である。
ゆえに民主の理想は
「一人の人」の尊厳観
なくしては成り立たない。
そして「一人」の生命の探究は、
やがて、
大宇宙にも連なりゆく
生命の壮大さへと
人間を開眼させていくであろう。

「平和」といっても、
決して日常を離れたところにあるものではない。
現実の生活のなかに、
また一人一人の生命と人生に、
どう根本的な「平和の種子」を
植え、育てていくか。
ここに、永続的な平和への
堅実な前進があり、
私どもの活動の眼目がある。